

平成30年第34週 県中保健福祉事務所感染症レター

(H30.8.20~H30.8.26)

	福島県		県中地域				須賀川・岩瀬地区				石川地区				田村地区			
	第34週	第33週	第34週		第33週		第34週		第33週		第34週		第33週		第34週		第33週	
	感染症動向	感染症動向	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報
インフルエンザ	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
咽頭結膜熱	11	15	2	0	2	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	55	33	3	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0
感染性胃腸炎	63	33	18	1	3	0	15	0	3	0	0	0	0	3	1	0	0	0
水痘	10	15	2	3	5	2	1	3	4	2	0	0	0	1	0	1	0	0
手足口病	24	15	6	0	0	1	6	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
伝染性紅斑	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
突発性発疹	35	17	8	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0
ヘルパンギーナ	142	177	9	2	6	2	6	0	3	0	0	2	0	1	3	0	3	1
流行性耳下腺炎	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
RSウイルス感染症	68	100	5	1	8	0	5	0	8	0	0	1	0	0	0	0	0	0
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0		0	0		0	0
流行性角結膜炎	21	20	0	0	1	0	0	0	1	0		0		0	0		0	0

※平成30年1月1日より百日咳が全数把握疾患となりました。また、風しんの届出が「診断後7日以内」から「診断後直ちに」と変更になりました。  
 ※平成30年5月1日より急性弛緩性麻痺が全数把握疾患となりました。

【感染症発生動向調査】 ※定点医療機関からの情報をもとに集計 【学校欠席者情報】 ※保育園、幼稚園、小中学校、高等学校の欠席者情報です。

県中地域の状況	
<p><b>流行中</b></p> <p>〈RSウイルス感染症〉 RSウイルスの感染による呼吸器感染症です。症状は軽い風邪様の症状から重い肺炎まで様々です。感染経路は飛沫感染、接触感染です。</p>	<p>※飛沫感染 患者の咳やくしゃみのしぶきに含まれる細菌を吸い込むことで感染します。マスクの着用や咳エチケットを実施してください。</p> <p>※接触感染 細菌が付着した手で口や鼻に触れることで感染します。手洗い、うがい、頻りに人が触れ場所(ドアノブ等)についての環境整備など基本的な対策を徹底することが必要です。</p> <p>※糞口感染 接触感染の一種。便の中に排泄されたウイルスが口に入って感染します。排泄後の手洗い、オムツの適切な処理が必要です。</p>
<p><b>小流行中</b></p> <p>〈咽頭結膜熱〉 アデノウイルスの感染により、38~39度台の発熱、のどの痛み、結膜炎といった症状を引き起こす、小児に多い病気です。プールから上がったときは、シャワーを浴び、うがいし衛生を保つようにしましょう。患者とのタオルの共用など綿密な接触は避けましょう。</p> <p>〈ヘルパンギーナ〉 発熱と口腔粘膜にあらわれる水疱性の発疹を特徴とした急性のウイルス性咽頭炎であり、乳幼児を中心に流行します。感染経路は接触感染を含む糞口感染と飛沫感染です。</p>	

妊娠中・妊娠の可能性のある方は注意 ~先天性風しん症候群~

○風しんの発生状況

関東地方で風しんの届出数が大幅に増加しています。第33週では全国で43例の届出があり、平成30年1月からの累計で184例の届出がありました。平成29年は1年間で93例の届出があり、現時点で前年の届出数を上回っています。

また、風しんの流行に伴い発生が多くなるのが先天性風しん症候群です。妊娠中・妊娠の可能性のある方は注意が必要です。

○先天性風しん症候群を知っていますか？

免疫のない女性が妊娠初期に風しんに罹患すると、風しんウイルスが胎児に感染し、出生児に先天性風しん症候群(CRS)と総称される障がいを引き起こすことがあります。

母親が顕性感染した妊娠月別でCRSの発生頻度をみると妊娠1ヵ月で50%以上、2ヵ月で35%、3ヵ月で18%、4ヵ月で8%程度です。成人でも15%程度は不顕性感染(感染しても症状が出ない)があるので、母親が無症状であってもCRSは発生する可能性があります。

また、母親が顕性感染した妊娠月別でわかるとおり、妊娠初期であるほどCRSの発生頻度が高くなります。妊婦のみならず、妊娠の可能性のある方は注意が必要です。

○先天性風しん症候群の臨床症状

- ・3大症状 先天性心疾患：妊娠初期3ヵ月以内の母親の感染で発生。  
白内障：妊娠初期3ヵ月以内の母親の感染で発生。  
難聴：妊娠初期3ヵ月以外の母親の感染でも発生。  
高度難聴であることが多い。
- ・網膜症、肝脾腫、血小板減少、糖尿病、発育遅滞、精神発達遅滞、小眼球など多岐にわたります。

○先天性風しん症候群の予防には風しんに感染しないことが重要

- ・妊娠前で風しんに対する十分高い抗体価を保有していない場合は、積極的に予防接種を受け、免疫を獲得しておくことが望ましいです。
- ・妊娠中であれば、予防接種を受けることができません。風しんの流行時には外出を避け、人混みには近づかないようにするなど注意が必要です。
- ・風しん流行時に、同居者に風しんに罹る可能性の高い方(予防接種未接種等)がいる場合は予防接種を受ける等風しんを発症しないように予防に努めましょう。

この情報に関するお問い合わせ先：県中保健福祉事務所 医療薬事課 感染症予防チーム

TEL:0248-75-7818 E-mail:kenchu\_kansensyovobou@pref.fukushima.lg.jp